

工学部・建設学科 建築学コース カリキュラムマップ（共通専門科目）

学習・教育目標	<p>建築学コースでは、ディプロマポリシーとなる以下の9つの学習・教育目標を定めています。</p> <p>(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける (B) 多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身に付ける (C) 人間と社会に関する教養を身に付ける (D) 建築技術者としての倫理観を養う (E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身につける (F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける (G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築として実現する能力を身に付ける (H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける (I) 工学と芸術のバランスのとれた感性を磨く</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号									
					達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す									
					(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)	
T980026	機械システム工学概論	機械システム工学以外の学生を対象として、工学の基礎をなす数学分野から暗号や微分幾何について、コアとなる機械工学分野からは先端的なロボットやバイオ、基盤となる熱流体やトライボロジーなどの領域について概説する。	(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける	機械システム工学の概要と基礎を学ぶことにより、各学生の様々な専門分野における学習や研究、将来の業務における基礎力を涵養することが目標となっている。	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
T980034	電気電子工学概論	本講義では、電気電子工学以外の学生を対象に、電気電子工学の基礎およびその応用分野について学ぶ。	(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける	電気電子工学の基礎知識を修得し、社会生活と電気電子工学の関係を理解する。	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
T980042	応用化学概論	近代のキリスト教文明に裏打ちされた機械文明は、産業革命以降、生産手段の急拡大を支える中心的な役割を担ってきた。20世紀、それは地下資源、地上資源の大規模採取・大量生産・大量消費に基づく富の拡大再生産と生活レベルの向上が可能となった時代であった。しかし、20世紀後半になると、それまで地球の環境容量が極めて大きいために顕在化しなかったいわゆる地球環境問題が顕在化してきた。すなわち、気候変動を引き起こす程大量の、エネルギー利用に由来するCO2やメタンの排出による地球温暖化、酸性雨、熱帯雨林の減少、砂漠化等、様々な地球環境問題に直面している。我が国の工業化への出発は遅れたが、欧米列強に追いつき、快適な生活環境を手に入れた。しかし、急激な工業化の過程で、重金属・有機化合物等による河川・海洋や土壌、大気環境の劣化（地域環境問題）に直面し、いまなおこれらの問題を必ずしも克服出来ていない。我々ホモサピエンスはその散智で人口爆発を抑え、これらの急激な環境の変化を緩和して、地球規模及び地域規模における環境の一層の劣化を避けつつ、生活レベルを向上させることは21世紀においても可能であろうか。今、その持続可能性が問われている。 この授業では地球環境問題・地域環境問題の特質を解説し、国際社会はこれらの課題を如何に解決し、どんな未来を構築しようとしているかについて紹介する。	(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける	地球環境問題・地域環境問題の特質を把握した上で、国際社会はこれらの課題を如何に解決し、どんな未来を構築しようとしているかについて理解を深めることを、この授業の到達目標としている。	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
T980050	建設学概論				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
T980069	情報工学概論	情報工学の基礎として、ICT（情報通信技術）に代表される情報化時代の基本となる知識の理解と修得を図ることを目的とする。まず、情報についての基礎知識を学び、次いで、計算機システム概要、さらに、インターネットとネットワークなどの情報倫理についての基本を学習する。	(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける	本授業の到達目標は以下の4項目である。 1. 情報工学の基礎である情報の概念、情報の表現方法を理解する。 2. 計算機の仕組み、システム構成、アーキテクチャ、OSなどの基礎知識を習得する。 3. プログラミング言語などソフトウェアの概要を学習する。 4. 計算機の利用方法、ネットワークなどについて概要、利用方法、倫理などを学習する。	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

工学部・建設学科 建築学コース カリキュラムマップ（共通専門科目）

学習・教育目標	<p>建築学コースでは、ディプロマポリシーとなる以下の9つの学習・教育目標を定めています。</p> <p>(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける (B) 多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身に付ける (C) 人間と社会に関する教養を身に付ける (D) 建築技術者としての倫理観を養う (E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身につける (F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける (G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築として実現する能力を身に付ける (H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける (I) 工学と芸術のバランスのとれた感性を磨く</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号										
					達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す										
					(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)		
T980078	光科学入門	光は生命にとって水とともに不可欠のものである。光とは何か、この問かけが、哲学、物理が学などの学問を発展させてきた。この講義では、光の研究の歴史をたどりながら、光がどのように理解されてきたか、光は現在どのように使われているのか、光に関係する生命現象、気象、環境など広範なテーマを取り上げ、総合的に光を理解することを目的としている。将来、光科学を本格的に学ぶための入門として、光学に関する基礎知識を丁寧に解説する。	(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける	光科学の基礎的知識を学び、生活の中で光に関係する現象や技術が多いか認識する。光と波動の現象が、将来学ぶの専門科目の理解に役立つための基礎とする。	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
T980079	オプティクス	液晶ディスプレイ、プロジェクタ、CD/DVDなどの光記録、半導体露光装置、光通信、レーザー加工などの光学機器や最先端の計測技術において光学技術が使われている。講義は光学を応用した工学技術について興味を喚起することを目的とする。そのために、光に関連する自然現象を学問的に理解し、人工光であるレーザーの原理とその応用及び各種の光学機器の動作原理を理解できる基礎知識の修得を目指す。		オプティクス、光科学、光工学に関連した基礎、また、これらの応用機器について理解することを目的とする。											
T980094	共創コーチング	「人と人が共に高めあいながら、ものを創っていく」(共創)という概念が、社会的に注目されています。これは、将来を担う学生がもつべきビジョンの一つと言えるでしょう。「共創」を実現するためには、「コーチング」が役に立ちます。「コーチング」は基礎的なコミュニケーションスキルであると同時に、やる気を引き出す、目標達成を実現する、なりたいたい自分になるための実用的な技術でもあります。今日では「コーチング」は、企業での管理者研修やキャリア教育などにも広く用いられています。そこで、本講義では、社会の様々な場面で「共創」を実現する人材の育成を最終目標として、その基礎となる「コーチング・マインド」を身に付けることを目的とします。		本講義は次のような内容の講義と実習を含みます：①コーチングとは何か、②コーチングの進め方、③コーチングスキル（傾聴・承認・質問）、④セルフコーチング、⑤研究開発現場でのコーチングの活用、⑥就職活動や自己管理などでのコーチングの活用など。なお、講義、実習、評価については、本学大学院教員と連携して実施します。											
T980095	インターンシップA	机の前に座って教員の講義を受けたり自分で本を讀んだりして勉強することは重要なことであるが、実際に企業や自治体の事業所など（以下「企業等」と略す）で実社会での実務を体験することも重要である。この授業は企業等に赴き、実務を体験するものである。	この科目は全工学部生の選択科目である。 (B) 多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身に付ける	実務を体験することにより、次の効果が期待できる。 1) 学習目的が明らかになり、専門科目教育の効果が高まる。 2) 企業経営と職務への理解が深くなり、社会への適応能力が高まる。 3) 将来職業を選ぶ際に役に立つ。 4) 自分を見つめ直し、自らの適性を考えるよい機会になる。 このように授業の到達目標は、実務を体験して受講生の学習目標が明らかになること、および自らの適性を確認できるようになることである。	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

工学部・建設学科 建築学コース カリキュラムマップ（共通専門科目）

学習・教育目標	<p>建築学コースでは、ディプロマポリシーとなる以下の9つの学習・教育目標を定めています。</p> <p>(A) 科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける (B) 多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身に付ける (C) 人間と社会に関する教養を身に付ける (D) 建築技術者としての倫理観を養う (E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身につける (F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身に付ける (G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築として実現する能力を身に付ける (H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身に付ける (I) 工学と芸術のバランスのとれた感性を磨く</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号									
					達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す									
					(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)	
T980096	インターンシップB	机の前に座って教員の講義を受けたり自分で本を読んだりして勉強することは重要なことであるが、実際に企業や自治体の事業所など（以下「企業等」と略す）で実社会での実務を体験することも重要である。この授業は企業等に赴き、実務を体験するものである。	この科目は全工学部生の選択科目である。 (B) 多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身に付ける	実務を体験することにより、次の効果が期待できる。 1) 学習目的が明らかになり、専門科目教育の効果が高まる。 2) 企業経営と職務への理解が深くなり、社会への適応能力が高まる。 3) 将来職業を選ぶ際に役に立つ。 4) 自分を見つめ直し、自らの適性を考えるよい機会になる。 このように授業の到達目標は、実務を体験して受講生の学習目標が明らかになること、および自らの適性を確認できるようになることである。	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0